

萬 萬 歳



ドイツの南西端、フランス・スイス国境に近い場所にあるフライブルグは、ソーラーエネルギーなどのエネルギー政策や公共交通機関を中心とした都市デザイン、緑の保護条例など、先進の環境対策と快適性が世界から環境都市として注目を集めています。

当町は(株)清流パワーエナジーと共同で、太陽光発電や地元間伐材を利用した木質バイオマス発電など、再生可能エネルギーを用いた水素製造プラントの建設計画を進めています。現在当町に本拠地がある水素ステーションの水素も当面はガス会社から購入した水素を供給しますが、2020年までには当町の事業所で製造した水素が供給開始される予定です。



当町は、再エネで水素を生成し二酸化炭素を排出しない低炭素化社会の“まちづくり”を目指し、研究開発や社会実験への実証フィールドの提供、また施策や事業における再生可能エネルギーの導入および活用、住民のみなさまへの普及啓発などを通じて積極的な協力を行います。7月26日、岐阜県庁で「水素社会の実現に向けた産学官連携協定締結式」がありました。当町は昨年度から岐阜県次世代エネルギーコンソーシアムの会員となり町と関連企業、地域住民等による水素利活用に関する調査研究を進めてきました。

これを契機に、再エネ由来の水素をエネルギー資源として、観光・地場産業振興・防災力強化・エネルギー産業創出等を活用するまちづくりの機運が醸成されると思われます。総務省委託事業「分散型エネルギーインフラプロジェクト・マスタープラン策定事業」に応募し、その取り組みを加速させています。

この連携協定の締結により、岐阜県および岐阜大学ならびに関連企業3社((株)清流パワーエナジー、森松工業(株)、ブラザー工業(株))の技術支援を受け、庁舎など公共施設への燃料電池の導入、廃熱を利用した温浴施設や露天風呂の設置、温室栽培による地元野菜の生産やキノコ栽培の取り組みなどエネルギー関連産業を進める事が実現すれば、雇用や人口対策のみならず環境都市として全国へ、世界へ発信できる日も訪れると思います。

八百津町長 金子政則

一般財団法人自治総合センター コミュニティ助成事業を活用しました！

宝くじの社会貢献広報事業として、地域のコミュニティ活動の充実・強化を推進し、地域社会の健全な発展を図るために、宝くじ助成金を活用し、次の事業を行いました。

＜事業内容＞

錦津地区夢おこし事業推進委員会が音響セット・プロジェクター・集会用テントなどを購入し、地域の活性化のため、毎年行う夏祭りや各種行事などに活用します。



▲ 錦津地区夏祭りの様子